

子ども登山教室が無事に終了しました！

「子ども登山教室」が、無事に終了しました。4月29日の高尾山から始まり、伊豆ヶ岳、三頭山、雲取山、そして最後に燕岳登頂を果たしました。

今回参加した子どもたちのうち、A君は5つの山全てに登頂しました。A君、よく頑張りましたね。おめでとうございます。S君は、最後の二つに参加できなかったけど、生まれてはじめての山登り挑戦でした。S君、頑張りましたね。

今年初めて計画した「子ども登山教室」は、二人の参加がなければ始めることができませんでした。元気で明るいA君と、人を思いやるやさしさを持ったS君、二人に出会えたことは、山仲間アルプにとって大きな財産となりました。心から「ありがとう！」を送ります。

今回の「子ども登山教室」は、山に登ることよりも、この教室を通じて、どんな小さなことでもよいから、二人に何かをつかんでもらえたらうれしいと思い始めたものです。今回の経験を、これからの学校生活や家庭での生活に生かしてもらえたら、会員一同、とてもうれしいです。そして、もしこれからも山に行きたいと思うときがあったら、いつでも声をかけてください。

本当に、本当に、ありがとう！



三頭山山頂にて

★三頭山(6月24日)報告

参加者 中1男子2名、親御さん1名

スタッフ6名

別動隊 スタッフ2名、会員(視覚障害者1名、
健常者3名)

今回は、子どもたちに雨を経験してもらおうと思ったが、前日までの予報では、雨は夕方になってからということで、無理かと思っていた。ところが、都民の森について歩き始めたところ、雨がポツポツと降り始めた。



森林館横の木材チップを敷き詰めた歩きやすい道を歩いていると、次第に雨が絶え間なく降るようになってきた。今回の子ども登山教室で、初めての雨具着用だ。子どもたちの雨具は、ゴアテックスでないのもので、防水性が心配だが、若さで乗りきってもらおう。

登山道の脇に、モミジイチゴがたくさん熟していたので、みんなで味見をしてみる。完熟のものはなかなか美味しかった。三頭大滝を橋の上から見物し、登山道に入っていく。

今回は「ブナの路」を登る。沢沿いで気持ちの良い道だ。木々の名前を確認しながら登る。登るにつれ、ミソサザイ、コマドリ、キビタキなどの声が聞こえてくる。雨の日も、鳥たちは休まず歌っている。

そろそろ、空腹と疲れが足を重くし始めた頃、稜線に出た。避難小屋で雨を避け、昼食とする。小屋の中は、大勢の登山者が休憩していた。山頂に向けて小屋を出る。アカハラやジュウイチの声が聞こえた。雨の中、しばらく登ると西峰

に到着した。案内板は中央峰になっているが、西峰が正しいらしい。富士山など遠くの山は見えないが、雨にしては視界が良く、富士山方面の山々が見えていた。集合写真を撮り、中央峰と東峰を目指す。ここは特に展望の良いところではないが、東峰下の展望台からは、大岳山などがよく見えた。



コマドリの路への分岐を過ぎ、尾根通しの道を下るが、左側が切れていて、なかなか厳しいルートとなる。雨で足下も滑りやすく、慎重に下る。S君は、膝がぷるぷるしてきて辛そうだ。それでも、カエルを掴まえて楽しみながら下っていた。A君は、膝が強いようだが、それでもかなり疲れてきたと言う。

鞘口峠までは急な道だったが、峠からは広い道なので安心して下ることができる。都民の森に着いたのは、予定より30分ほど遅かったが、16時発の五日市直通バスがあり、武蔵五日市の駅からは予定の電車に乗り込むことができた。

コースタイム

都民の森(10:35)…三頭大滝(11:15-11:20)…三頭山避難小屋(12:20-13:10)…三頭山西峰(13:25-13:30)…鞘口峠(15:10)…都民の森(15:25)

★雲取山(7月7日～8日)報告

参加者 中1男子1名、スタッフ6名

別働隊 スタッフ3名、会員(健常者1名)

★7月7日

今回は、S君が体調不良のため、残念ながら欠席となってしまった。

天気はどんよりした曇り空だが、雨は大丈夫そうだ。奥多摩駅からのバスをお祭で降り、後山林道を歩く。この林道にはオオルリが多かった。次から次ぎへと聞こえてくるオオルリを楽しみながら林道を登っていく。塩沢橋で昼食を取り、林道終点から登山道に入る。きれいに整備されていて、非常に歩きやすい。



三条の湯に到着

後から来た若者のいるパーティーに先に行ってもらい、ゆっくり登るが、それでもすぐに三条の湯に到着した。受付を済ませ、大部屋に入る。今日は、大部屋を貸切状態だった。入浴を済ませ、Yさんの指導で、体をほぐす体操をしたり、話を聞いたりして小屋でのひとときを過ごし、夕食後はすぐに横になって眠りについた。

★7月8日

昨晚のうちに作ってもらった朝食を持って、5時前に小屋を後にした。落ちると危険な斜面をトラバース気味に登っていく。明け方から、ヒーヒーというトラツグミの声が聞こえていた。沢筋ではミソサザイが元気に囀っている。

青岩鍾乳洞の分岐近くで朝食を取る。

水無尾根をトラバース気味にずっと登っていく。野鳥の歌声は、ミソサザイからコルリ、アカハラ、コマドリ、メボソムシクイと標高に合わせて変わっていき、三条ダルミではルリビタキが盛んに歌っていた。

ここから、少し急登を頑張ると、避難小屋に到着する。避難小屋に荷物を置き、山頂に登る。青空も少し顔を出し、雲海の上に見えた山は飛龍山のようなだった。残念ながら富士山は見えなかったが、雲の切れ間から月も見えていた。小屋の外でHさんにお湯を沸かしていただき、コーヒーなどをいただく。



雲取山山頂にて

山頂からは緩やかな尾根道を軽やかに歩き、小さなピークを越えたところで、奥多摩小屋に到着した。木で作った大きくかわいいふくろうの置物が置いてあった。ここで小休止をして、先を急ぐ。尾根の右手には、マルバダケブキがたくさんあった。来月には、満開となって一面を



子鹿が現れた

黄色く染めることだろう。

ブナ坂から、七ツ石山を巻いて堂所に向かう。Hさんは、先に七ツ石小屋に行き水を汲んで堂所で待っていてくれた。堂所から登り尾根をトラバースしながら下り、小袖乗越に着き、さらに山道を下って、鴨沢に到着した。少し遅れているメンバーを待って、1本遅いバスで奥多摩駅に向かった。A君にとっては初めての小屋泊まり。良い経験になったのではないだろうか？

★燕岳(8月3日～4日)報告

参加者 中1男子1名、スタッフ6名
別働隊 スタッフ2名、会員(健常者5名)

★8月3日

今回は、子ども登山教室最後の燕岳だ。残念ながらS君が、体調が悪く参加できなかったが、A君と別働隊で参加したYちゃんが、行きの車中から元気に話が弾み、楽しくて仕方がないという雰囲気が広がってきた。

今日は、中房温泉まで移動し、温泉に入ってゆっくりする。A君は、いくつもの温泉に入ろうと誘ってくれたが、私は2つでダウンしてしまった。

★8月4日

今日は、いよいよ燕岳に向けて登る日だ。夜行で来たKさん、Yさんと合流し、登りはじめる。

合戦尾根は、いきなりの急登で始まる。少し登ると、中房温泉の赤い屋根がすぐ足下に見える。第1ベンチは、少し下ると水場がある。Yさんが冷たい水を汲んできて、Yちゃんの頬に付けてあげる。

コースタイム

7/7 お祭(10:35)・・・塩沢橋(12:10-12:40)・・・林道
終点(14:05-14:15)・・・三条の湯(14:45)
7/8 三条の湯(4:45)・・・三条ダルミ(8:00-8:25)・・・
雲取山(9:00-9:50)・・・奥多摩小屋
(10:30-10:40)・・・ブナ坂(11:15)・・・堂所
(12:25-12:45)・・・鴨沢(14:35)



合戦小屋への荷揚げのケーブルの下をくぐるとすぐに第2ベンチだ。今日は、今年1番の人出らしく、ベンチは満員で座るところはあまりなかった。登ってくる人も多く、どんどん追い抜いていく。しかし、私たちも順調に高度を稼いでいる。A君も元気に登っている。足下には、モミジカラマツ、ギンリョウソウなどが咲いていた。

第3ベンチまでは傾斜は少ないが、少し距離がある。そして第3ベンチからさらに急登を頑張ると、富士見ベンチに到着する。残念ながら富士山は見えなかった。富士見ベンチから少し上がると、合戦小屋に続く平坦な尾根になる。木の間越しに横通岳や東天井岳が見えてくる。「合戦小屋まであと7分」さらにあと5分という看板を見送り、ようやく合戦小屋に到着した。美味しいスイカを半切れずつみんなにいただき、ゆっくりと休憩する。休憩中に荷物がケーブルにぶら下がり登ってきた。A君とYちゃん

んは興味津々だった。



合戦尾根にて。若手？3人衆

小屋から、さらに登ると、次第に高山植物が多くなる。ウサギギク、エゾシオガマなどが咲き始める。登り着いた合戦沢の頭からは、これから向かう燕山荘や燕岳が見えてきた。北側には餓鬼岳が見え、東には今まで高く聳えていた有明山が低く見える。表銀座の縦走路と大天井岳もわずかだが雲の中から見えてきた。

ここから燕岳に続く道は、高山植物のお花畑だ。チングルマ、ゴゼンタチバナ、コバイケイソウ、オオヒョウタンボク、コイワカガミなどが咲いている。ザレた登山道を通り、やや尾根を巻き気味に登ると、燕山荘がひょっこりと現れる。山荘の下は、最高のお花畑だ。ミヤマキンボウゲ、シナノキンバイ、ハクサンイチゲ、ミヤマクワガタ、ミヤマトリカブト、テガタチドリ、ハクサンフウロなどが咲き乱れていた。山荘に12時10分に着いたが、雨が降ってきたので、今日の燕岳登頂はあきらめ、翌日の早朝、朝食前に登ることにする。

雨が止んだ頃、外に出てみたが、山荘の周囲にはコマクサがたくさん咲いていた。チシマギキョウも咲き、少し前に出たTさんはライチョウも見たという。A君もライチョウを見たがっていたが、残念ながら現れなかった。

★8月5日

昨日、山荘に着いた時からガスで何も見えなかったが、2時30分頃から霧が晴れて星も見

えてきた。4時起床の予定だったが、3時30分にみんなを起こし、子どもたちにも星を見もらう。子どもたちは山荘の外に出なかったが、それでもスバルやカシオペアを確認してもらった。それに人工衛星もみることができた。槍ヶ岳も、はっきりではないが、暗い夜空に沈んで見えていた。

朝食前の4時5分に山荘を出発して、燕岳に向かう。山頂が近づくにつれて、またガスに巻かれてしまった。コマクサに溜まった露がライトに照らされて光っていることをNさんが教えてくれた。



日の出前に燕岳山頂に到着

4時35分に山頂に到着する。しかし、ガスで何も見えない。日の出の時間まで待てば、明るくなるので、それを待って山頂で記念写真を撮りたかったが、寒かったことと、朝食の順番が取れるか心配だったことなどで、暗かったがストロボで記念写真を撮って、山頂を後にする。



燕山荘とガスに巻かれた燕岳

早く下りて朝食の順番待ちをしてくれる人と、北燕岳方面にコマクサを見に行く人に別れる。

北燕岳方面のコマクサは、斜面一面に咲き、すばらしかった。こちらに行こうと誘ってくれたYさんに感謝です。

燕岳を巻いて帰途につく。山頂からしばらく下ると、霧が晴れて燕岳が見えた。しかし、それもつかの間で、また姿を隠してしまった。ただ、裏銀座の山々や大天井岳方面も少しずつ見えてきた。有明山の左手に見える雲海や、燕山荘への風景を楽しみながら下る。眼鏡のような穴の空いた岩では、Yさん、A君、Yちゃんが登って穴の向こうを確認していた。



高山植物の女王コマクサ

山荘に着き、順番待ちをしていたおかげ

で、すぐに朝食を取ることができた。帰りの準備をして、山荘の周囲で槍ヶ岳が見えるのを待ったが、ほんの一瞬、かすかに姿を現せてくれただけだった。大天井岳方面の縦走路や、赤茶けた湯俣川はよく見えた。

山荘の前で記念写真を撮って、下山にかかる。次第に雲が切れ、青空が広がりはじめた。下山の道からも槍ヶ岳はなかなか顔を出さなかったが、青空に出会うとやっぱりうれしい。登っ

てくる人たちとも大勢行き交ったが、順調に下山し、中房温泉に予定より15分遅れの11時15分に無事到着した。立寄の湯「湯原の湯」に浸かって、汗を流すことができた。

今回の子ども登山教室は、これで全日程を終了しました。高尾山から始まって、A君は、燕岳まで登り切ることができました。山が好きになって、今度や槍ヶ岳に登りたいという希望まで出てきました。S君は、最後は体調を崩して参加できなくなってしまいましたが、頑張っ

てはじめて経験する登山を楽しんでもらえたと思います。また、機会を見つけて、一緒に山に登ってみたいと思います。

コースタイム

8/4 中房温泉(6:45)…第二ベンチ(7:55-8:05)…合戦小屋(10:25-10:50)…燕山荘(12:10)
8/5 燕山荘(4:05)…燕岳(4:35-4:50)…(北燕岳方面散策)…燕山荘(5:50-6:55)…合戦小屋(7:55-8:05)…中房温泉(11:15)

子ども登山教室感想文（第2回伊豆ヶ岳）

S君の感想

自分は、今回二度目の登山で、アルプの人たちとも少しずつうちとけてきて、話しやすくなりました。なにより、前回の登山で登山がどんなものかわかったので、だいぶ登りやすくなりました。そして、前回より登りやすくなったため、色んな生物をよくみることができました。前回とちがって、急斜面な所もあったし、山頂では、朝木さんのサポート練習と自分がアイマスクをつけて何も見えない所を歩きました。今回は前回とは比べものにならないほど厳しくも楽しい登山になりました。

子ども登山教室感想文（第2回伊豆ヶ岳）

A君の感想

高尾山とはちがってがけのような所もあったけど、鳥や木などがたくさんあったので、とても楽しかったです。山頂で行った目かくしをしての歩行はとてもこわかったです。とてもつかれたけど、登山が楽しく思えてきました。早く次の山へ登りたいです。

（第3回三頭山）

登山をしているとちゅうで雨がふってきてしまいましたが、登山をしている時の雨の対しよがわかりました。雨の中の登山でころんでしまったので、ころばないように歩き方を工夫したいと思います。三頭山の登山、たのしかったです。

（第4回雲取山）

1日目の山小屋の時に、せきこんでしまったけど、よくねむることができたので良かったです。二日目ののぼりは足は平気だったけど、下りの時は足がいたくなかったので、次は足がいたくならないようにしたいです。この登山教室も次で最後なので、最後までがんばりたいです。

（第5回燕岳）

登山教室最後だったけど、「コマクサ」などの高山植物を見ることができたので、うれしかったです。

歩くのは雲取山よりはつかれなかったけど、斜面が急だったので足がいたくなりました。中房温泉の温泉は気持ちよかったです。もう一回、燕岳に行きたいです。

山 行 報 告

★白神山地(6月1日～3日)

参加者 会員(障害者5名、健常者13名)
賛助員(健常者1名)

夜行高速バスを二ツ井で下車し、第1観光バスのマイクロバスに乗車して、駒ヶ岳登山口に向かう。途中、白神山地世界自然遺産センターに立ち寄っていただき、ガイドブックなどをいただく。

舗装道路から凸凹の激しい林道となり、道路脇にシラネアオイやキクザキイチゲの花が見えてくると、駒ヶ岳登山口に到着した。トイレを済ませ、タムシバなどの咲く登山口を後にし

★6月1日

発した。歩き始めると、すぐにキビタキの出迎えだった。運良く姿も見つけられた。小さな沢を渡り、足下の花を楽しみながら行くと、田苗代湿原（たなしろしづげん）に到着した。ここには、ミズバショウやショウジョウバカマ、ザゼンソウ、エゾノリュウキンカなどが咲いていた。



キビタキは軽やかな歌声

田苗代湿原を過ぎ、冷水沢コースへの分岐を過

ぎると、次第に道は険しくなってくる。急登を頑張り返り振り返ると、白神岳方面が見えるようになってきた。山頂から見える景色に期待して、急登を頑張る。木々の隙間に青空が見え始めると、一がんばりで、山頂に続く尾根に飛び出した。左側が切れているので、慎重に進むが、足下にはシラネアオイがきれいに咲いている。ヒメイチゲやツバメオモトも楽しめた。振り返ると、岩木山がひときわ高く、富士山のように裾を引いている。残念ながら山頂は雲の中だったが、きれいな山容が楽しめた。



藤里駒ヶ岳山頂にて

山頂に到着すると、すばらしい展望が楽しめた。ニッ森や小岳、そしてその向こうには、残雪を抱いた白神岳と向白神岳が、よく見えている。岩木山と、その右手には、遠く八甲田連峰も見えていた。

昼食を済ませ、尾根コースから登山口に下山する。途中、残雪があり、少し苦労したが、Yさんの適切なエスコートで、無事に通過し、14時30分過ぎに登山口に到着した。ここからマイクロバスで八森の宿泊場所まで送っていただき、今朝、東京駅を出発した人たちと合流し、温泉に入ったり、夕食を食べたりして、懇親を図った。

★6月2日

今日は、白神山地の主役「白神岳」に登る日だ。五能線を乗り継いで、白神岳登山口で下車。駅の近くの民家の方をお願いして、寝袋や着替えなど登山に不要な装備を預かっていただく。このおかげで、予定どおり山頂を登れたようなもので、深く感謝します。

舗装道路を歩き、登山口広場でトイレを済ませて、登山道に入っていく。斜面をトラバースしながら登っていくと、二俣分岐に到着した。この付近から、猛烈な虫の大群にまわりつかれて、みんな辟易することになる。しかし、ブナの新緑は澄んだ緑で美しく、目に優しい。虫が多いのも、自然の豊かさの証だろう。最後の水場で冷たい水を飲み、水筒も満たして、登り始める。ここからしばらくは急な登りとなる。シラネアオイも咲き始めてきた。野鳥は、とにかくキビタキが多い。コルリやホトトギス、ツツドリ、オオルリなどの声もした。

蛭山分岐からは、傾斜が落ち、緩やかな登りが続く。ブナの新緑がとにかく美しい。朝はすばらしい天気だったが、山頂付近に雲がかかり始めた。樹林帯から抜け出ると、雲の切れ間から山頂とトイレ小屋の屋根が見えた。足下には、オオバキスミレやミヤマキンバイが咲いている。顔を上げると、ヤマザクラの花が満開だった。白神岳の山腹は、ヤマザクラの茶色の葉や芽吹き of 淡い緑のコントラストがすばらしく、やわらかな色合いを出している。ブナの森を上から見ると、もこもことした感じがする。稜線

に出ると、向白神岳が見えてきた。昨日登った藤里駒ヶ岳も見えてきた。山頂に着くと、海岸線の向こうに遠く鳥海山が見えていたようだった。



白神岳山頂にて

相変わらず多い虫を無視しながら昼食とする。昼食後は、来た道を引き返す。よくこんなに登ったと思うくらい、下山にも時間がかかった。登山口の車道に着いて、ホッと一息。車道を下り、振り向くと白神岳が残照を浴びて、神々しく見えた。空には雲一つなくなっていた。

白神岳に登らず、十二湖を散策した人たちと十二湖駅で合流し、サンタランドの送迎バスに乗り込み、サンタランドで夕食とする。夕食後、十二湖リフレッシュ村まで送っていただき、ログハウスで今日の登頂を祝いあった。夜、上空には北斗七星が広がり、近くでキョキョキョキョというヨタカの声が聞こえた。

★6月3日

今日は、大崩までの予定だが、体調を崩した人もいたので、いくつかのグループに分かれて、時間を過ごすことにする。大崩へは、昨日のんびりコースを楽しんだ人たちを中心に12人で向かう。

朝のさわやかな空気の中、ブナの原生林を抜け、青池に下りる。まだ光が当たっていないため、美しい色合いにはなっていなかった。鶏頭場の池から登山道に入るが、近くでキョロロロというアカショウビンの声が聞こえた。昨日のんびりコースの人たちが見つけたところと

同じ付近だ。大きなレンズのカメラを構えた人が数人いたので、その付近にすることがすぐに分かり、こちらも観察させていただく。初めて見た赤い鳥、アカショウビンに感激だ。ビデオと写真に収めて、登山道に向かう。

沢状の
ところを
詰め、迂
回路と
書かれ
たところ



鳴き交わしていたアカショウビン

ろを登る。次第に急になり、周囲はハルゼミの大合唱となる。平坦なところに出たところで休憩し、最後の登りにかかる。途中、展望の良いところで、展望を楽しみ、さらに登ると、クマの糞のようなものがあった。こちらは、強力なスピーカーを持った人たちがばかりなので、クマも怖がって逃げるだろう。



ブナの新緑が眩しく心を癒してくれる

山腹をトラバースし、ニリンソウの咲く斜面を過ぎると、大崩に到着した。足下に十二湖と日本海が広がり、すばらしい展望だ。しかし、大勢の人がいると、押されて落ちかねないので、交替でピークに立つ。

大崩から来た道を引き返し、鶏頭場の池で、またアカショウビンと出会って、撮影タイムとトイレタイムになる。かなり時間がかかったため、そのまま昼食を取って、青池から沸壺の池に向かう。青池は底までよく見える透明度の高い池で、神秘的な色をしていた。泳いでいるイ

ワナが何匹も見えた。沸壺の池は、エメラルドグリーンときれいな緑色の池で、こちらも楽しめた。沸壺の池から十二湖庵に下り、抹茶をいただく。そこから車道を歩いて、王池キャンプ場前で一息入れてからバスに乗り、十二湖駅で全員合流し、五能線のディーゼルカーに乗り込んで、帰路に就いた。車窓からは、昨日登った白神岳が見え、反対側にはきらきら輝く日本海が見えた。心地よい疲れに、いつしか眠りに落ちていた。

コースタイム

★逆川(リーダー養成コース)(6月17日)

参加者 会員(健康者5名)

すばらしい天気にも恵まれた奥多摩駅は、登山者でごった返していた。東日原行きのバスも満員で、臨時のバスが出るくらいだった。

川乗橋でバスを降り、川苔谷林道を遡る。川苔谷に下りるルートがはっきりしなかったため、竜王橋まで行ってから戻って確かめた。ルートが不明瞭だったが、途中から右寄りに下りて川苔谷に降り立った。

ここで足ごしらえをして出発。すぐに現れた逆川に入り、水に濡れながらゴルジュ帯の小滝を超えていく。2段11mの滝に着くと、6人ほどの先行パーティーが滝の右側を登っていたため、順番待ちになりそうだったので、ロープを使って滝の左側を登る。出だしがやや悪かったが、その上は簡単に越えて滝の上に出られた。Yさんが次ぎに登り、後続のメンバーを確保して出だしを登らせてくれた。そこからは、プルーシックを使って登ってもらう。

しばらく穏やかな沢を遡り昼食を取る。後続パーティーが追い越していった。さらに行くと、左手から4mの滝をかけた沢が合流し、その先

- 6/1 駒ヶ岳登山口(9:55)…冷水沢コース分岐(10:55-11:00) … 藤里 駒ヶ岳山頂(12:15-12:55)…登山口(14:35)
- 6/2 白神岳登山口駅(7:05)…登山口広場(7:55-8:05)…二俣分岐(8:50-8:55)…最後の水場(9:40-9:55) … 蛭山分岐(10:35-10:40)…白神岳(12:40-13:10)…最後の水場(16:25)…白神岳登山口駅(17:20)
- 6/3 十二湖リフレッシュ村(7:15)…青池(7:45) … 大崩(9:40-9:45)…青池(11:25-12:30)…王池キャンプ場バス停(13:35)

に深い釜を持った3mの滝がかかっていた。ここを先行パーティーは、かなり苦労して登っていた。時間がかかりそうなので、我々はすぐ左側を巻き気味に登る。先行パーティーの人たちも、私たちの後を登ってきた。



大ダワ沢を越え、伐採跡やナメ滝を超えると、今回の核心の滝3段15mにぶつかる。中段までは何でもなく登れるが、上段は両手両足を突っ張って登る。ロープで確保して後続の人たちに登ってもらうが、何度かスリップしたため、ロープにぶら下がりて登ってもらった。この頃には、後続のパーティーは見かけなくなった。

すぐに7m滝にぶつかるが、ここは左から高巻き気味に登る。しばらく行くと、下の方がぬめぬめした10m滝にぶつかる。つるつる滑りそう、迷ったが、残置のシュリングが2本見

えたことから、登れると判断しロープをつけて登り始める。最初のシュリングに確保を取り、



シュリングを使って登る。その上の段に上がると、ホールド、スタンスとも豊富にあった。後

★白杵山・市道山(7月1日)

参加者 会員(障害者5名、健常者10名)
賛助員(健常者1名)

空はどんよりと曇っているが、天気予報どおり雨は降っていない。このまま山から下りるまで降らないことを祈って、元郷でバスを下車する。

元郷のバス停は狭く、場所がないので、少し登った登山道で自己紹介をする。今回は、初参加の方や久しぶりに参加の方がいて、新鮮な気持ちで山を楽しめそうだ。

歩き始めるとすぐに、赤いイチゴがたくさん実っていた。何粒か収穫して味わう。種類は分からないが、とても甘くて美味しかった。

登山道は、なかなかの急登だ。しかも風がないので、汗が噴き出してくる。尾根に出ると、風が通り涼しかった。この稜線は、予想以上に険しかった。岩混じりの道や切れている道が多く、慎重に登っていく。檜原村のテレビアンテナを二つ見送ると、ようやく白杵山の山頂に到着だ。昼食を取り、集合写真を撮って、次の目

続のメンバーに登ってもらう。滝のすぐ上には、ウスバ林道が通っていた。時間的にかなり遅くなっていたため、ここで登山靴に履き替え、下山にかかった。この道は、林道となっているが、落ちると助からない所もあり、かなり厳しい登山道だった。

今の季節は、日が長くてありがたい。鳩ノ巣駅に18時に到着。お疲れさまでした。

コースタイム

川乗橋(9:45)…川苔谷(10:35-11:00)…11m滝の上(12:00)…3m滝の上(13:35)…大ダワ沢(13:55)…ウスバ林道(16:00)…鳩ノ巣駅(18:00)

的の山、市道山に向かう。急な道をかなり長く下った。



とにかくアップダウンが多く、岩混じりの急な上り下りがあるため、厳しく、累積標高差もかなりあったようだ。最後の急登を頑張って、市道山に到着する。後の女性陣は、急登にもめげ



ず、とにかくにぎやかだ。市道山でも記念写真を撮り、急なヨメトリ坂を下り、最後はコケが生え、木が朽ちかけている橋をおそろおそろ渡って林道に出た。オオルリがすばらしい歌声を谷間に響かせていた。

展望もなく厳しい道のりを歩くだけの今回の山行だが、キビタキ、イカル、オオルリのきれいな歌声や、美味しいイチゴ、そしてイチヤクソウやギンリョウソウが、山行に彩りを添えてくれた。

うっとうしい梅雨の季節でも、出なければ自然はきっと何かを語りかけてくれる。そんな自然に感謝しつつ、予定よりも少し早めに着いたバス停では、河原におり、沢に足を浸したり着替えをしたりしながら、バスを待った。

コースタイム

元郷(10:20)…白杵山(12:30-13:15)…市道山(15:05-15:20)…笹平(17:00)

★西吾妻山(7月28日～29日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

★7月28日

今日は、白布温泉に移動するだけのため、東京を昼過ぎに発つ。集合に手間取り、バタバタしたが、無事につばさに乗車し、米沢に向かう。

米沢からはバスで白布温泉に移動する。民宿の米沢牛の焼き肉が美味しかった。

★7月29日

夜半に雨が降り心配したが、朝は上がっていた。ただ、雲はどんよりと厚い。ロープウェイからリフトを乗り継いで高度を稼ぐ。リフトに乗っている途中で雨が降り出したので、雨具を付けて歩き始める。



美しい湿原を歩く

次々に登山者が追い越していくためなかなか進まない。歩きにくいこともあり、もしか展

望台に到着したのは9時50分だった。歩き始めて45分。コースタイムで20分の所だった。ここからしばらくは木道が続き、歩きやすくなる。オトギリソウやミヤマリンドウ、ワタスゲなどが咲き、私たちを楽しませてくれる。池塘も美しい。

水場を過ぎ、少し急な登りを頑張ると、梵天岩に到着した。大きな岩が積み重なっているため、慎重にサポートをしてもらい通過する。梵天岩を越え、一旦下ってから一登りで西吾妻山に到着した。ここで12時40分。時間がかかりすぎているため、昼食は早めに切り上げ出発する。



西吾妻山山頂にて

西吾妻小屋の脇を通過し、南側の斜面をトラバースして、西大嶺に向かう。斜面にはコバイケイソウやシナノキンバイが咲いていた。西大嶺到着が14時35分。予定タイムは大幅にオーバーしているが、あとは下るだけだと思っていた。

ところが、この道も泥の付いた岩混じりの道で滑りやすい。視覚障害者の人たちには、特に歩きにくい道だった。15時30分頃、Aさんから、ゴンドラリフトの最終が16時のはずだという話が出て、私たちが着くのを待ってもらようよう交渉するということで、先に下っていただくことになった。

TさんとNさんが歩きにくさと疲れでペースが落ちてきたため、私はIさんをサポートして、ペースを上げて先に下る。すでに16時を過ぎているが、なかなか着かないため、Iさんに待っていてもらい、私は登り返して、Tさん、Nさんのサポートに回ることにする。その時、Aさんから電話が入った。ゴンドラリフトの運転を16時30分まで待っていただけるとのことだった。しかし、その時間にも着けないため、もう少し待っていただけないかお願いしていただくことにした。

私たちが着くまで運行を延長してくださるという了解を得て、AさんにはIさんの所まで登り返してきていただくようお願いする。

私は、後のグループと合流し、Tさんのサポートをして下る。Tさんと合流し、さらにIさんとも合流して、やや急ぎ足で下る。ようやく

ゴンドラリフト乗り場が見えた。と同時に、激しい雨が降り出した。雨具の上は付けていたものの、着けていなかったズボンはあっという間にびしょぬれになってしまった。Aさんは、雨具も着けずに、様子を見に来てくださり、全身びしょぬれだった。

全員、ゴンドラリフト乗り場に到着し、運転をしてくださるみなさまにお礼を言って、乗せていただく。下の売店も開けていてくださった。ゴンドラリフトを動かしていただいたおかげで、大幅に予定が遅れながらも、無事に帰ることができ、大変感謝しています。タクシーも呼んでいただき、売店でお土産を購入させていただき、タクシーで猪苗代駅に向かった。

今回は、予定が大幅に遅れ、グランデコスノールリゾートのみなさまに大変お世話になりました。ありがとうございました。

コースタイム

7/29 天元台リフト終点(9:05)…もしか展望台(9:50-10:00)…西吾妻山(12:40-13:05)…西大嶺(14:35-14:45)…グランデコスキー場ゴンドラリフト(17:35)

★赤木沢(リーダー養成コース)(8月17日～19日)

参加者 会員(健康者4名)

★8月17日

前夜の夜行バスで富山に到着した。富山駅で赤木沢に登るみどりの風のみなさんと合流する。折立から登山を開始する。猛暑続きで参っていたが、さすがに折立は涼しい。1870mの三角点までは急登が続く。三角点に立つと、薬師岳が見えてきた。太郎平山までは緩やかだが登りが続く。イワショウブやチングルマの綿毛が楽しませてくれる。振り返ると有峰湖が横たわって見える。

五光岩ベンチに着くと、太郎平小屋が見えてくる。緩やかに登っていき、太郎平小屋に到着。この小屋を見るのは、28年ぶりだろうか？その時は、天気が悪く何も見えなかったが、小屋前の広場からは、水晶岳、祖父岳、雲ノ平、鷲羽岳などが見える。トイレを済ませ、薬師沢小屋に向かって下る。沢に下り立った時、ヘリが上空を飛んでいた。沢に腰を下ろしている人を見ると、右足首にタオルを巻いているのが分かった。この人が救助を待っているのだと思い、ヘリに向かって手を振った。HさんとYさんは、救助を待つ人たちのところに行って、荷物などを整理してあげていた。私も行ってみよ

うと思ったが、ヘリが近づくと猛烈な風で、小石が飛んだり沢の水がかかったりで、目も開けていられず、とても移動できない。じっとこらえて、ヘリが作業を終えるのを待つより他になかった。

ハプニングがあったが、沢づたいに下っていく。花の下が白いチョウジギクなどが咲くやや危険なところを通過し、カベツケヶ原を過ぎると、薬師沢の小屋に到着した。1部屋全てをもらった。黒部川の澄んだ水面を見ながら、明日のために英気を養った。

★8月18日

今日はいよいよ沢登りだ。足が切れそうなほどつめたい黒部川にできるだけ入らないように、奥ノ廊下を遡っていく。赤木沢出合の手前にあった急流を右岸に渡って、さらに左岸に渡り返して越える。足を滑らせたら、急流に流されるため、先に渡ったHさんとYさんが、お助けひもを出してくれた。

赤木沢出合の美しい黒部川で、記念写真を撮る。ここから、巻き道を通して、赤木沢に出る。Hさんは、巻かずに岩をつたって赤木沢に下り立った。



赤木沢に入ると、沢床の岩が赤くなり、まさに赤き沢だ。すぐに現れた2段15mの滝を右側から登る。さらにナメ滝を登ると、ウマ沢が左から入ってくる。

4段の滝は、右側の草付きから巻くが、3段目の滝は、HさんとYさんは、胸まで水に浸か

って取り付き、直登してきた。3段8mを過ぎると、細長いトロと2段15m滝を登る。とにかく水が澄み、エメラルドグリーンの輝きがあって美しい。美溪だという声が聞こえ、みんな美しさに酔いしれているようだった。



その後しばらくは平凡な河原歩きが続く。行く手には稜線も見えてきた。右手の尾根に続く斜面もみどりが美しい。そして、5mナメ滝からまた美しい滝が連続する。4段20mの滝や3段15mの滝を過ぎ、3mのナメ滝を過ぎると、クライマックスの大滝2段35mが現れる。小尾根の影にあるため、尾根を回り込んで全景を見てみる。垂直に近い1枚岩を流れ落ちている。ここは、尾根の右側のルンゼ状のところを落石に気をつけて登り、途中からトラバースして小尾根を回り込む。ここからさらに上に上がるルートもあったが、私たちは1段目の滝の上に下りて、2段目は右の岩づたいに登った。難しいところではないが、足を滑らせて落ちると大変なことになるため、慎重に通過する。

大滝の上が二俣だが、ここは左俣に行くことにする。水流もぐっと減ったが、まだ気持ちよく流れている。次の二俣は、赤木沢に突き上げる沢と中俣乗越に突き上げる沢に分かれるため、みんなで協議したが、時間があり、左側の方が明るそうだったので、左側の中俣乗越に突き上げる方を選ぶ。先行パーティーの二人も同じ方向に向かった。

水流がなくなる前に、少し早いが昼食とする。沢筋はお花畑になってきた。ミヤマダイモンジ

ソウヤムシトリスミレなどが咲いている。振り返ると、薬師岳東南稜や赤木平が見えている。東南稜は、昭和38年に愛知大学の大量遭難があった場所だ。若くして命を落とし、何ヶ月も発見されなかった彼らの無念を思うと心が痛む。



チングルマやハクサンイチゲ、ミヤマリンドウなどが咲き乱れるお花畑を登ると、中山乗越に到着した。握手をして、完登を喜び合う。



ここからは、稜線を赤木岳に向けて登る。振り返

るとガスの切れ間から黒部五郎岳が、ひときわ高く望まれた。登るにつれ、赤牛岳、水晶岳がよく見えてくる。薬師岳も時折ガスから頭を出してくれた。赤木岳から今回の最高峰、北ノ俣岳を通過し、お花畑の草原を軽やかに太郎平小屋に向けて下った。三俣蓮華岳や双六岳も見えてきた。三俣蓮華岳の左には、大天井岳も見えていた。

小屋に着き、完登を祝って部屋で乾杯をする。夕暮れの山々を見渡し、夜は満天の星を楽しんだ。

★8月19日

太郎平小屋は、東側に高い山があるため、日の出が遅い。朝食後、薬師峠方面に槍ヶ岳を見に行った。三俣蓮華岳の左に、北鎌尾根からせり上がっている鋭く尖った槍ヶ岳が聳えていた。朝の霞に包まれた山々を楽しみ、小屋に戻る。小屋の右手には遠く加賀の白山が望まれた。



小屋から一昨日登ってきた道を下る。朝露に濡れたチングルマの綿毛が、宝石箱のように光り輝いている。自然は最高の芸術家だなと思うわけにはいられない。写真を撮りながらゆっくりと下りていく。五光岩ベンチ付近では、剣岳も望まれた。何か得をした気分だ。快適に下り、折立に降り立つ。無事に楽しめたことを喜び合い、車で亀谷温泉に向かった。温泉に浸かって汗を流し、すっきりした気持ちで帰宅の途に着いた。さわやかな山の風が心の中を吹き抜けて行ったようだ。

コースタイム

- 8/17 折立(7:45)…1870m 三角点(9:30-9:45)…太郎平小屋(12:35-12:50)…薬師沢小屋(15:05)
- 8/18 薬師沢小屋(5:55)…赤木沢出合(7:30)…ウマ沢(7:45)…長いトロ上の2段15m滝の上(8:15-8:30)…二俣(9:50)…中俣乗越(11:55-12:00)…北ノ俣岳(14:00-14:20)…太郎平小屋(15:40)
- 8/19 太郎平小屋(6:10)…1870m 三角点(7:45-7:55)…折立(8:55)

★武甲山と那須岳は、悪天のため中止しました。

その他事業報告

★新川下流ミニハイキング(6月16日)

参加者 会員(健常者5名)

会員外(障害者3名、健常者3名)

週の半ばまで雨の予報だったが、梅雨入りしたとたんに晴れの予報となり、実際にすばらしい天気にも恵まれた。日差しは夏の日差しだが、湿度が低く、風があり、日影に入るとひんやりして気持ち良かった。



葦原で歌うオオヨシキリ

村上駅に全員集合し、挨拶の後、歩き始める。

新川の畔に出ると、早速オオヨシキリやセッカの声が聞こえてきた。時々、ゆっくり歩くOさんを待ちながら、緩やかに流れる新川の畔を思い思いに歩く。木の枝に止まって、「一筆啓上つかまつり候」と鳴くホオジロが間近にみられた。

宮内橋を渡ると、葦の群落から、ひっきりなしにオオヨシキリの「ギョギョシ」という声が聞こえてくる。緑色の田んぼには、コサギやアマサギがたくさんみられた。ヒバリも上空で歌っている。Sさんは、何気なく歩いていた場所

に、こんなに鳥や生き物がいたのかと驚いてい



昼食後、新川をバックに集合

た。昼食は、桑納川公園近くにある日影になっている橋の下で取った。ひんやりして涼しく、暑さを忘れてゆっくりできた。釣り人が、釣った鯉やヘラブナを見せてくれた。帰る時には、川に返すという。釣る醍醐味を味わいたいのだろう。上空には、ひっきりなしにセッカが、ヒッヒッヒッ・チャッチャッチャと鳴いていた。

昼食後、さらに上流に向けて歩き、国道16号にかかる八千代橋を渡って、八千代ふるさとステーションに到着し、ここで解散とした。時間的に短かったが、暑さに体が参る前で、ちょうど良かったという意見があった。学生たちが食べていたソフトクリームに心惹かれたが、ぐっと抑えて米本団地のバス停に向かった。

コースタイム

村上駅(10:30)…桑納川公園(11:50-12:35)…八千代ふるさとステーション(13:10)

★ふれあいキャンプ(8月25日～26日)

参加者 会員(障害者4名、健常者14名)

会員外(健常者10名)

★8月25日

奥多摩駅に全員集合し、山のふるさと村からの送迎バスを待つが、15分ほど遅れて到着。何でも私たちの前のグループが、電車1本遅れてしまい、その影響がこちらにきたようでした。

HさんとNさんに車で送っていただいた人たちと小河内神社で合流し、歩き始める。まずは、奥多摩湖にかかる麦山の浮き橋を渡る。ギーコギーコと揺れて、みんな楽しんでいるようだ。渡りきってからは、湖畔に付けられた道を歩き、山のふるさと村に向かう。さすがに暑く、おなかも空いてきたことから、何度か休憩を入れる。山のふるさと村の手前の河原で水に入りたかったが、まずは山のふるさと村のビジターセンターに行って、挨拶をする。ビジターセンターを少し過ぎた平坦な疎林の下で昼食にする。

昼食後、自己紹介を行い、スケジュールを説明して、ビジターセンターのガイドさんのところへ行く。今回は、ネイチャートレール2をセルフガイドで歩く予定だ。ガイドさんの説明を聞き、逆コースで進む。まずキャンプ場に立寄り、荷物を置く。ここで、トレールに行くメンバーと、料理下準備のグループに分かれる。

昔人が住んでいた痕跡を上げたり、落ち葉の種類を数えたりしながら、尾根を歩き、ビジターセンターに戻った。ここでガイドさんの説明を聞き、一同納得。ガイドさんの背負った籠に入れてもらったK君がかわいかった。

キャンプ場に戻り、料理の準備にかかるが、水遊びがしたいという数人で、水車小屋まで行き、沢に下りて足を水につけた。ただ、ここは、広い河原ではないため、滑らないように足をつける程度だった。それでも、つめたくて気持ちよかった。ビジターセンターでシャワーを浴び

て、キャンプ場に戻る。



竈に薪をくべる子どもたち

私たちが着いた頃は、子どもたちの大奮闘や料理部長、そしてみんなの力で、第1弾のバーベキューも焼き上がり、早速、夜の部の開始となった。ここからは、キャンプファイヤー部長に仕切っていただき、歓談しながら料理を食べたあと、キャンプファイヤーを囲み、歌と踊り、スイカ割り、そしてゲームを楽しんだ。子どもたちが挑戦したスイカ割りは、棒が命中してもスイカの方が堅くて、割れずじまいだった。



キャンプファイヤーの火を囲む

その後、数人の子どもたちと、夜の山道を登る。ライトを消すと真っ暗で、何も見えない。町中ではこんな経験はできないので、子どもたちは怖いながらも、新鮮な経験をしたようだ。

夜空に月が上がり、草むらではウマオイ虫がスイーチョンと鳴き、夜は更けていった。

★8月26日

早朝4時から炊事班のみなさんに朝食の準備をしていただく。昼食用のおにぎりも一人2個ずつ、にぎってもらう。



朝食後、全員で集合写真を撮り、今日の説明をして出発準備をする。HさんとNさんの車に荷物を積み、鞘口峠に行かずにNさんと一緒に車で帰るTさんとEさんと別れ、ハイキング組は鞘口峠に向けて登り始める。

早速急な斜面を下り、沢をコケが付いて朽ちかけた橋で渡る。このあと、何カ所も橋を渡ることになる。降り注ぐような緑と、沢を流れるひんやりとしたさわやかな風が、心を和ませてくれる。しかし、登山道は、奥多摩周遊道を越え、次第に急になってくる。水が流れる岩の上を登り、滑りやすい傾斜した木の橋を渡ると、ますます急登となる。前方の木々の間から青空が見え始め、鞘口峠に近いことを伝える。振り返ると、鷹ノ巣山や六ッ石山など、石尾根の

山々が見えてくる。ジグザグの道を頑張って、ようやく鞘口峠に到着した。ベンチに腰掛け、ゆっくり休む。

全員揃ったところで、都民の森に向けて下る。途中、レンゲショウマの花を見つけて感激する。森林館を過ぎ、都民の森で第1次の解散式をする。子どもたちにとっては、かなり厳しかったと思う、今日の山道も、一人も落後せず乗り切ることができました。少しは、子どもたちの自信につながったでしょうか？

昼食後、12時発のバスに乗り、数馬で下車して、数馬の湯に入って汗を流す。15時17分のバスで武蔵五日市駅に行き、ここで解散とする。

かなり密度の濃い二日間だったと思いますが、参加されたみなさま、お疲れさまでした。そして、ご協力、ありがとうございました。みんなで作った2日間でした。

コースタイム

8/25 小河内神社(11:10)…山のふるさと村(12:10)

8/26 山のふるさと村キャンプ場(8:40)…鞘口峠(10:40-11:00)…都民の森(11:20)

各種連絡事項

●文部科学省の「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業の実施団体に選ばれました

今年のNPO活動発表会などを通じて、友好関係を築くことができた子ども劇場千葉県センターが中心となって進める千葉まなびい実行委員会から推薦をいただき、文部科学省が行う「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業の実施団体に選ばれました。対象となる登山やハイキング、キャンプの講師料（リーダー、サブリーダー）や資料の印刷や発送にかかる経費

として約64万円をご支援いただけることになりました。

山仲間アルプの活動が、学びあいや支えあいを通じて地域の活性化につながるという評価をいただいたことを大変光栄に存じます。また、期待に応えるように活動を推進していきたいと思いますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

○千修会主催の「宝井馬琴講談出前寄席」の協賛団体となりました

東京都渋谷区のまちづくりネットワーク千

修会の理事の方より、千修会主催で行う盲人国

学者・塙保己一さんに関する宝井馬琴さんの講演出前寄席に、協賛団体として名前を掲載させて欲しいとの要請があり、協賛団体としてご協力させていただくことにしました。寄席は、9

月26日（水）午後2時～5時に、千駄ヶ谷区民会館（TEL. 03-3402-7854）で行われます。定員200名で、入場は無料です。ご興味のある方は、ぜひお出かけください。

▲立教大学からの実習生受け入れ

6月20日に、理事長の網干が「共に登山などを楽しむ」ために必要な「感謝の心」や「思いやりの心」をゲストスピーカーとしてお話をさせていただきましたが、話を聞いた学生さ

んが9月以降、ゼミの一つとして登山などに参加されます。学生さんたちの安全を守ると共に、共に楽しむことの大切さや楽しさなどを、伝えてあげてください。

今後の計画

秋から冬にかけては、特別な行事もなく、通常の登山やハイキングを計画しています。四国

の石鎚山も、まだ申し込み可能ですので、ご興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。（敬称略）
正会員 4名

賛助員 1名

編集後記

・理事長のつぶやき

先日、山仲間アルプのサイトを見た島根県に住む70歳で全盲の男性と、その方のボランティアガイドさん、そして山仲間アルプの荒川さん、尾崎さん、水野さん、富樫さんと私の7人で富士山に登ってきました。全盲の男性は、島根県内の山岳会に入ろうとしたのですが、「障害を持っているため危険だ」という理由で断られたため、島根県内に視覚障害者と登山をする

団体を作りたいという思いと富士山に登りたいという思いを持って、今回の富士登山を思い立ったそうです。しかし、富士山の麓の自治体など、多くのところに支援をお願いしたそうですが、なかなか、山仲間アルプのサイトから、理事長宛メールで打診してきました。そのような経緯から今回の富士登山が実現したのですが、この方からは、感謝の気持ちのすばらしさを学

んだように思います。

今回のことを「八千代よみうり」の記者に話したところ、記事にしてくださるということで、記者の方は、登山終了後に、島根県の全盲の方に電話でインタビューをしたそうです。その際、電話の向こうで、涙をしきりに流しながら、感

謝の気持ちを伝えていたそうです。

世話になった相手に、「ありがとう」と伝えることも感謝の一つの表し方ですが、心の底から込み上げてくる感謝こそ、深い感謝の気持ちなんだと、また一つ、学ばせていただくことができました。島根県の全盲の男性に感謝です。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

